

プログラムと情動の関係

- (1)プログラムが無くなると、情動(厭な気持ちとか、緊張間)も消える。
嫌な人を見たり、そばにただで、緊張や、苦しい気持ちが出ていたが、それらが起こらなくなる。
(例:Aさんと、息子さんとの長年の緊張関係解消の例。)
(Bさんの、女優「仲間ゆきえ」さんが嫌だったのが解消された例)など
- (2)プログラムが消えると、過去の記憶を思い出しても、その情動は動かない。
どのような、緊張や苦しい気持ちがあったのか、思い出そうとしても、さっぱり忘れている。思い出せない。

【結論】情動は、記憶や現在情報や想像した未来の情報から発生するのではなく、それらが、プログラムを通過した時に発生する。

つまり、情動は、「記憶されていない」。情動は、そのたび毎に発生させる仕組みになっている。
確かに、情動を記憶する装置を作ったとするとメンテナンスに莫大なエネルギーが必要になるはずで合理的でない。
苦しきも、悲しきも、辛きも、記憶されていない。
ただし、プログラムがあれば、何度でも、情動を起こすことはできる。

